

# 「2023年3月末までに石垣島にミサイル部隊配備」の方針を打ち出した防衛省

2021年8月2日 FB ページ I Love いしがき に投稿



図1は、きょう8月2日の読売新聞 web 版に載った記事です。

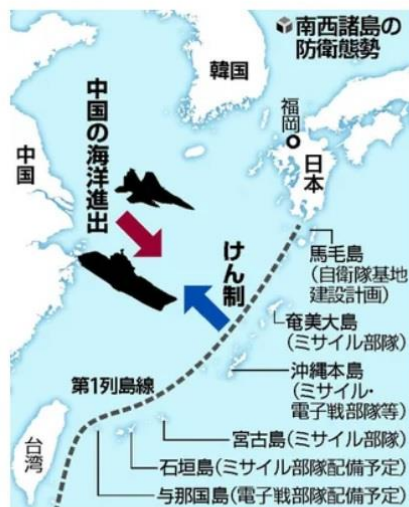
<https://www.yomiuri.co.jp/politics/20210802-0YT1T50230/>

防衛省が2022年度概算要求に盛り込む南西諸島陸自配備関連予算で、石垣島に22年度末（つまり23年3月31日まで）にミサイル部隊を配備する方針、と書いています。読売紙の「【独自】スクープ」ですが、実際には、防衛省の「リーク」の面もあるのではないのでしょうか。

## 【独自】石垣島にミサイル部隊配備へ...中国に対抗する狙い、南西諸島は4拠点態勢に

2021/08/02 15:00

防衛省は2022年度末に陸上自衛隊のミサイル部隊を沖縄県・石垣島（石垣市）に配備する方針を固めた。500～600人規模となる予定で、沖縄本島を含め、南西諸島のミサイル部隊は4拠点態勢となる。海洋進出を強める中国に対抗する狙いがある。



新たに常駐するのは地对艦・地对空ミサイルの運用部隊と、武力攻撃や大規模災害への初動対応を担う警備部隊だ。関連経費を来年度予算の概算要求に盛り込む。駐屯地は石垣市の市街地から離れた島内のゴルフ場跡地などに作り、隊舎や弾薬庫、訓練場なども設ける。

南西諸島は約1200キロ・メートルと日本列島に匹敵する長さで、フィリピンまでつながる「第1列島線」に位置する。中国はこの線の内側への米軍侵入を阻止する軍事戦略「接近阻止・領域拒否（A2A D）」を描く。沖縄本島と沖縄県・宮古島（宮古島市）間に空母「遼寧」を通過させるなど、この海域での軍事活動を活発化させている。

これに対し、防衛省は南西諸島の防衛力強化を進めている。石垣島が加われば、鹿児島県・奄美大島（奄美市など）と沖縄本島、宮古島の4島にミサイル部隊が配備されることになる。

石垣市では部隊駐屯への反対があり、18年3月の市長選でも争点となったが、事実上の容認姿勢だった現職の中山義隆氏が勝利した。中山市長は同年7月に部隊配備の受け入れを正式表明している。

防衛省では、ミサイル部隊以外にも、23年度末までに沖縄県・与那国島（与那国町）に電子戦部隊を配備するほか、鹿児島県・馬毛島（西之表市）でも自衛隊基地の建設計画を進めており、今後も南西諸島の防衛力整備を続ける方針だ。

図1 2021年8月2日の読売新聞 web 版記事

防衛省はこれまでも、石垣島のミサイル基地建設は22年度中に終えるような計画を示してきました。図2は、防衛省が、2020年10月に伊波洋一参院議員に示した、21年度概算要求で建設予定の施設の配置図（上）と、つい先日の7月26日（月）に撮影されたドローン写真（下）を並べたものです。上図の赤枠で囲った21年度予算で建設予定の施設が予定通り今年度中に執行され、22年度以降概算要求予定とされている茶色

の枠で囲まれたミサイル弾薬庫1棟、覆道射場、グラウンドなどが22年度中に執行されれば、22年度末には主な施設が完成し、部隊配備が可能になる、と考えているのかもしれませんが。

令和2年10月12日  
防衛省

「平得大俣の東側にある市有地及びその周辺」における施設配置案



図2 防衛省が、2020年10月に伊波洋一参院議員に示した、2021年度概算要求で建設予定の施設の配置図(上)と、2021年7月26日(月)に撮影されたドローン写真(下)

ただ、実際の工事の見通しとは別に、あと7か月後に迫った22年2月の石垣市長選挙を前にした思惑もあるのではないのでしょうか。「どうせもうすぐ基地は出来てしまうのだ」という雰囲気をも市民にふりまいて、今回も陸自配備問題を選挙の争点から外してしまおう、という。

しかし、昨2020年の12月には完成する予定だった旧ジュマール内の造成工事は、敷地の北西部で今も続いています。また、図2の上図と下図を比べて見ればすぐわかるように、21年度執行予定の建物や大型ミサイル弾薬庫3棟(赤枠で囲ったもの)のうちで、建設に着手したものはまだ一つもありません。それどころか、20年度中に執行予定だった食堂・福利厚生施設はまだ用地造成中で基礎も出来ておらず、台風6号の雨で大きな水溜まりになっています。また同じく20年度予算で執行するはずだった隊庁舎Aの建設も、ようやく基礎と地階部分が出来始めたばかりです。来年2月の市長選挙時に、建物らしく見える形になっているものがあるとしても、おそらく隊庁舎Aだけでしょう。

市政を変え、県知事とも連携して、工事をストップさせ、市民討論会や住民投票を通じて民意を明らかにし、計画を撤回させることは十分可能です。そうすれば、この記事が明らかにしているような米中対立による戦争に石垣島をまきこみ、軍艦攻撃用ミサイルの「砲台」として使って、再び「本土防衛の捨て石」の戦場にする危険なたくらみをやめさせることができます。

後に残る造成・整地された国有地は、国立自然史博物館のような、多くの国民、市民が望む魅力ある施設の計画に利用できるでしょう。